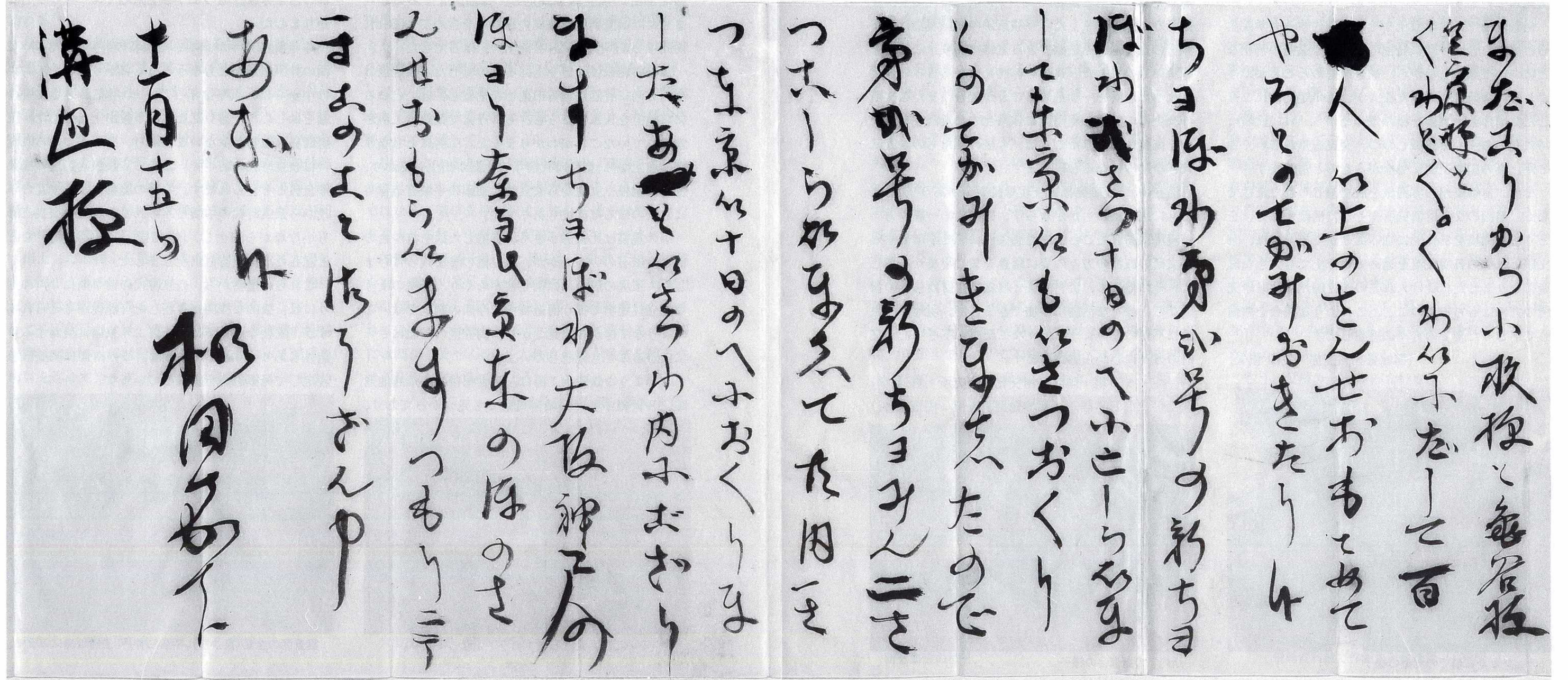


明治時代の平城宮跡保存運動の資料

下の写真は、明治時代の手紙です。読んでみてください。意味がわかりますか？一読したくらいではわからないでしょう。ずいぶんたどたどしい文字です。悪く言ったら失礼ですが、ただ、書いている本人が無筆だと言っているのですから、許してもらいましょう。この手紙は、明治時代に平城宮跡の保存運動に奔走した棚田嘉十郎の手紙です。奈良で植木屋をしていた人ですが、そのような一市民が、書けない字を書いて、一生懸命に運動している雰囲気が伝わってきます。このような資料を読み解いていくと、平城宮跡保存の歴史がわかってきます。

文字は右に示しておきました。署名簿(帳簿)に賛同の署名を集めている内容です。東京で華族の署名を集めていること、2冊目の新しい署名簿を作ったことなどが語られています。彼の最大の同志、溝辺文四郎に宛てた手紙で、溝辺家で今日まで大切に保管されてきました。右上の写真が、その署名簿の1冊目です。表紙には「平城宮舊跡紀念賛簿」とあるのですが、読めないほどに擦り切れているところに、その苦勞がしのべれます。(文化遺産部 吉川 聡)

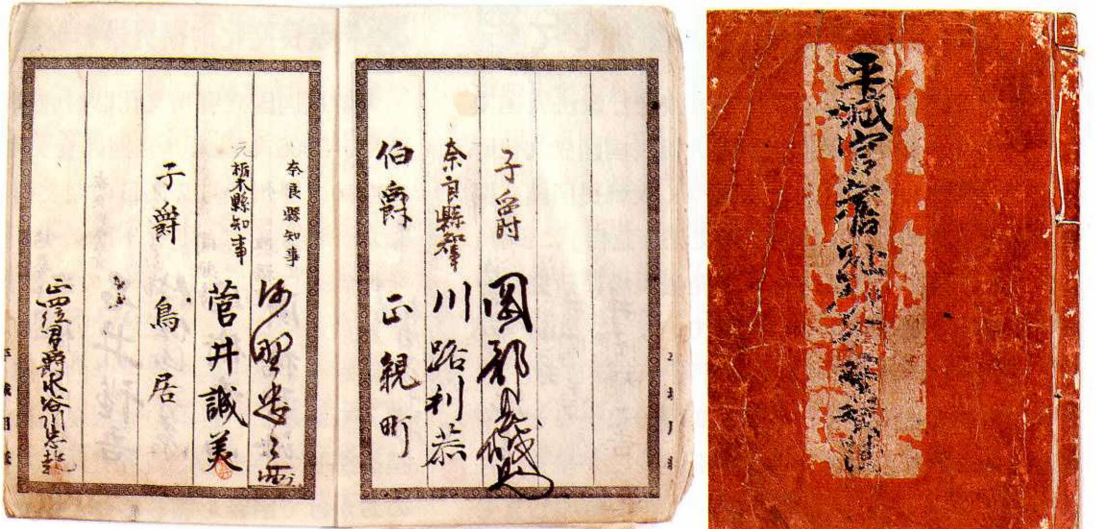
↓棚田嘉十郎自筆書翰(実寸大) 溝辺家所蔵



第弐号の^(帳簿)新ちヨみん式さ
つこしら^(其)いまして、共内一さ
つ東京い十日のへにおくりま
した。あ^(帳簿)といさつわ内にござり
ます。ちヨ^(帳簿)はわ大阪神戸の
方^(京都か)より奈良東のほのさ
んせおもらいますつもりニテ、
一寸このこと御^(相談)ぞさん申
あ^(け)ぎ候。
十一月十五日 棚田嘉十郎
溝辺様

まだ^(帳簿)こりから小杉様と亀谷様
笠原様とくわ^(華族)くわいにだして百
人以上のさんせおもとめて
やる^(手紙)とのてがみおきたり候。
ちヨ^(帳簿)はわ第弐号の新ちヨ
ほわ式さつ十日のへにこしらいま
して、東京いもいさつおくり
とのてがみ^(手紙)きましたので、

○「こ」は古のくずし字
○「に」は尔のくずし字
○「し」は志のくずし字



↑署名簿の表紙(右)と署名(左) 奈良文化財研究所所蔵 伯爵・子爵や県知事などの署名が見えます。